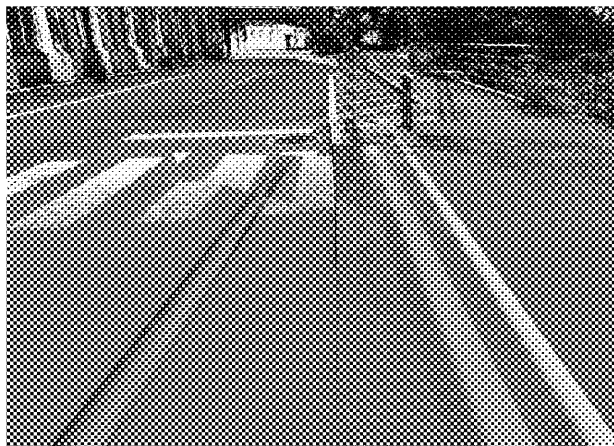


ウエスコ、道路設備DB化

地上・地下を一元管理



道路設備の3D画像データのイメージ。地上の実測データに地下設備を組み合わせて表示する

【岡山】ウエスコホールディングス傘下のウエスコ（岡山市北区）は、道路の3次元（3D）画像データに地下設備の情報を組み合わせたデータベース（DB）の整備サービスを始める。道路設備の「デジタルツイン」としてDB化すれば、電線共同溝をはじめ道路設備の整備と管理が容易になる。国や自治体の道路管理事務所に売り込み、今後3年間で10件、3億円の受注を目指す。

整備するDBは道路設備の情報を事業者から収集し組み合わせて画像データに、地下埋設表示する。地上と地下

の設備を3Dデータで一元管理できる。

整備に当たっては2021年末に刷新した

最新の測量車で、交通規制なく通常走行しながら測量を行う。500万画素のカメラ4台、3000万画素の全方位カメラ1台に、毎秒100万点の点群データを取得できるレーザー扫描仪を搭載。全球測位システム（GPS）も備え、3Dデータに約10センチの誤差で正確な位置情報を組み合わせられる。

地下設備の情報は上水道やガス、電力、通信などの各事業者が所有する設備データを収集し、整備する。場合によっては自社で保有する路面空洞探査車を用い、やはり通常走行しながら電磁波レーダーで地下の設備を測量する。

道路の管理はもともと紙ベース、2次元図面の道路台帳で行われてきた。街路樹や縁石、標識、信号、電柱といった地上設備を詳しく把握できていない場合もあり、同社これまで測量と現地調査によるデータ整備サービスをやってきた。さらに地下設備のデータを加えることで、全国で進む電線の地中化工事が容易になる。